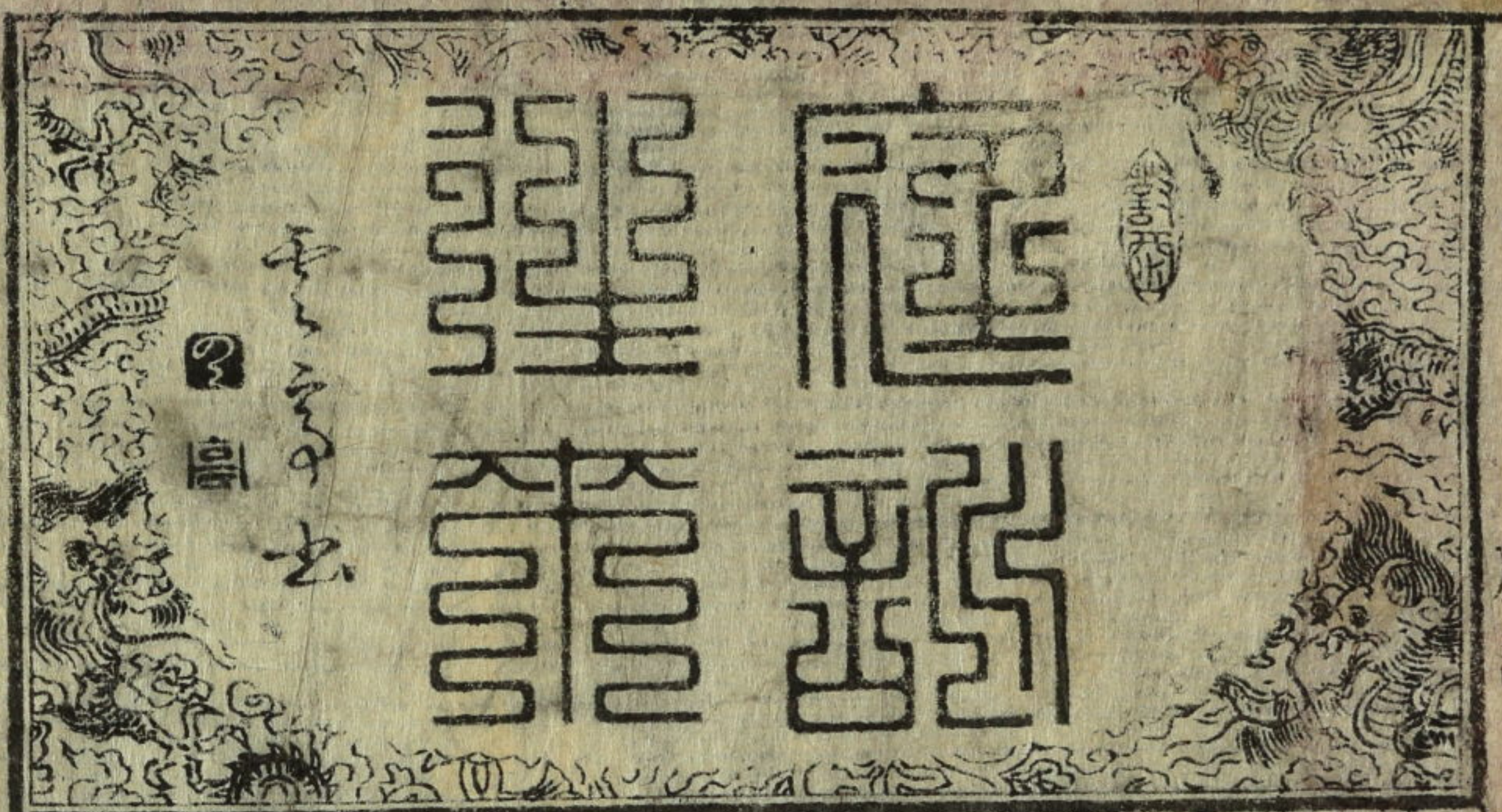




御蔵  
三  
五  
七  
九

寶珠庭訓  
平假名附  
謬字改正  
本意全





平賀文

聖德太子

夫佛法王法ヲ修ル事ハ仁義禮智信ヲ宗トス竊以文武  
 二字ヨリ興テ五常ノ源ヲ顯タリ故何レ者文ハ仁義禮  
 智ノ列ヲ兼武ハ智信ノ二儀ヲ示ス爰ヲ以テ二國傳燈スル  
 所謂文ハ佛法ヲ建立シ滅罪生善ノ巨益也武ハ王法ノ  
 莊ナリ強敵ヲ靜メ國衛ヲ護念シ群集ヲ糾スナリ就中  
 文道ヲ嗜者ハ月氏ノ照亮震旦ノ魏文日域ノ聖德ナリ  
 是等ノ先德ハ依テ世屬ヲ刷ナリ為テ文盛則又王法  
 昌ナリ為テ文猛則ハ國家イヨク豊饒ナリ顯ル武士ハ惟天  
 地陰陽相生ノ時ノ衆人无病勸奇學ハ文嗜テ不可捨ハ  
 武ナリ中比天名山ニ獨メ學匠アリ名ヲ玄惠法印ト云生  
 國ハ羽州ノ人ナリ夕ク比叡山ニ學特シテ或時禁中ニ被召  
 年来學問ニ奇特ナル事ヲ御所望有リ刻庭中ニテ一卷ノ  
 書札ヲ謄見給テ二月ヲ兼テ潛ニ法度ヲ顯ナリ御門此文ヲ  
 獻覽在テ則庭訓往來ノ題ヲ給王法世法ハ如列星ノ如  
 日月明ナリ末世ノ諸人以此書可為鑑ト而云

積水不可極  
 安知滄海東  
 九州何處遠  
 萬里若乘空  
 向國惟看日  
 歸帆但信風  
 驚身映天黑  
 魚眼射波紅  
 鄉國扶桑外  
 主人孤島中  
 別離方異域  
 音信  
 吾為通



朔月養生俗談

朔日ハ産屋と掃除等  
その朝も陽を拝み  
すてはしてちちちちち  
あつなり  
今夜主殿のまの  
南命家んがくす月  
今度衣と云書んす  
振舞とあつなり  
びりさのえあの日  
とれりさすひと  
此月をたて生れ  
かてまの産屋と  
しり取さわん  
温のあつなり  
おま大ま  
編り  
はさゆり  
くす  
乃書

大行不顧  
細謹



是の朝も産屋と掃除等  
その朝も陽を拝み  
すてはしてちちちち  
あつなり  
今夜主殿のまの  
南命家んがくす月  
今度衣と云書んす  
振舞とあつなり  
びりさのえあの日  
とれりさすひと  
此月をたて生れ  
かてまの産屋と  
しり取さわん  
温のあつなり  
おま大ま  
編り  
はさゆり  
くす  
乃書

三月  
此月をたて生れ  
かてまの産屋と  
しり取さわん  
温のあつなり  
おま大ま  
編り  
はさゆり  
くす  
乃書



三月  
此月をたて生れ  
かてまの産屋と  
しり取さわん  
温のあつなり  
おま大ま  
編り  
はさゆり  
くす  
乃書

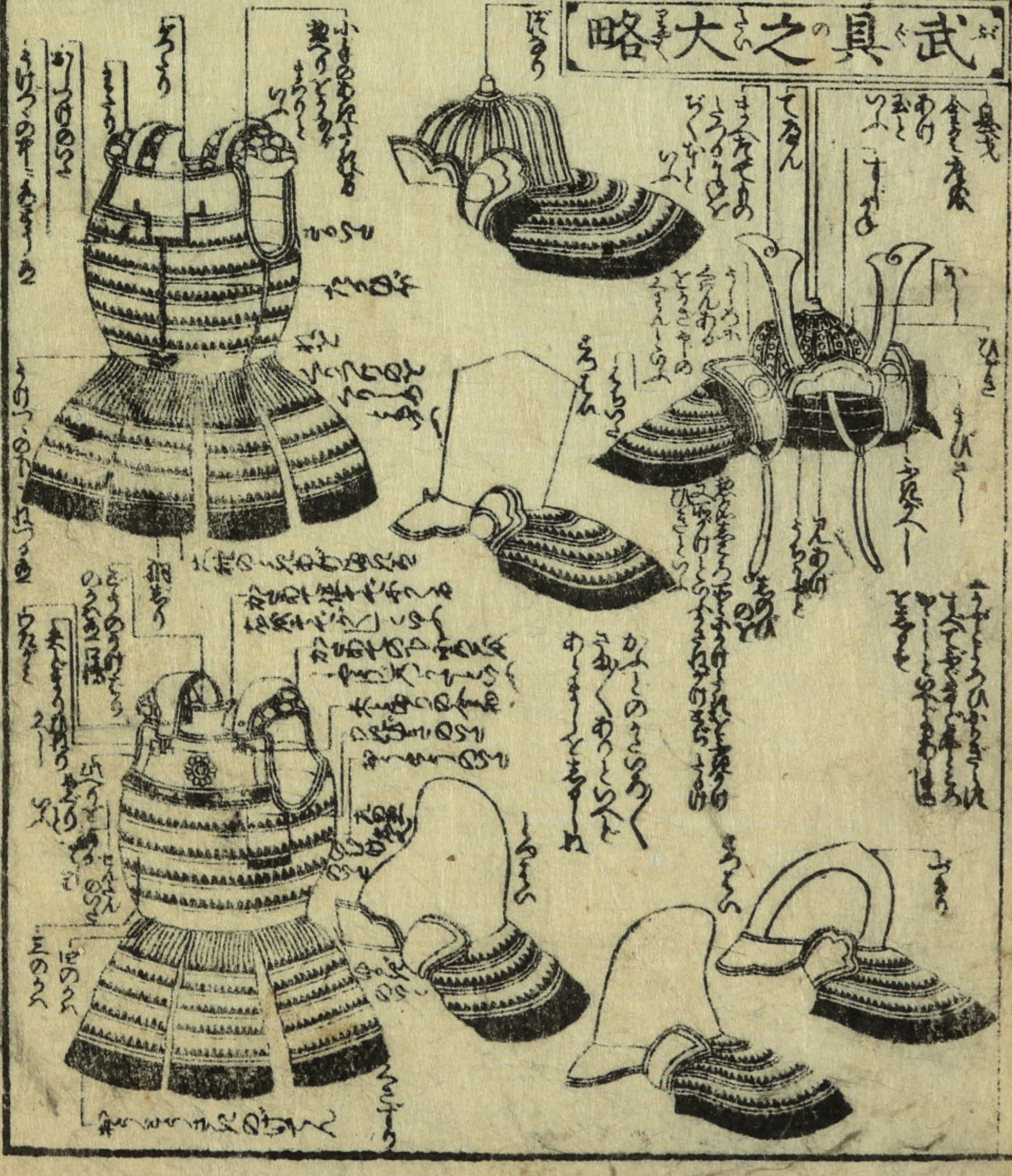
四月  
九日目の入村...  
五月五日...  
六月...  
七月...  
八月...  
九月...  
十月...



鱈魚頭	胡麻頭	笈答頭	下子頭	札之圖
花小	山道	駒頭	波流	碁石頭
後	道	六	小	分

四月  
九日目の入村...  
五月五日...  
六月...  
七月...  
八月...  
九月...  
十月...

武之具大略



鱈魚頭	胡麻頭	笈答頭	下子頭	札之圖
花小	山道	駒頭	波流	碁石頭
後	道	六	小	分

ありては...  
 十月十日...  
 十一月...  
 十二月...

**筆の説**  
 虞舜...  
 漢の楊雄...  
 唐の韓愈...  
 宋の苏轼...  
 明の沈周...



**紙の説**  
 古の竹筒...  
 蔡倫...  
 樹皮...  
 魚網...  
 天竺...



墨の...  
 漢の...  
 唐の...  
 宋の...

**硯の説**  
 漢の...  
 唐の...  
 宋の...

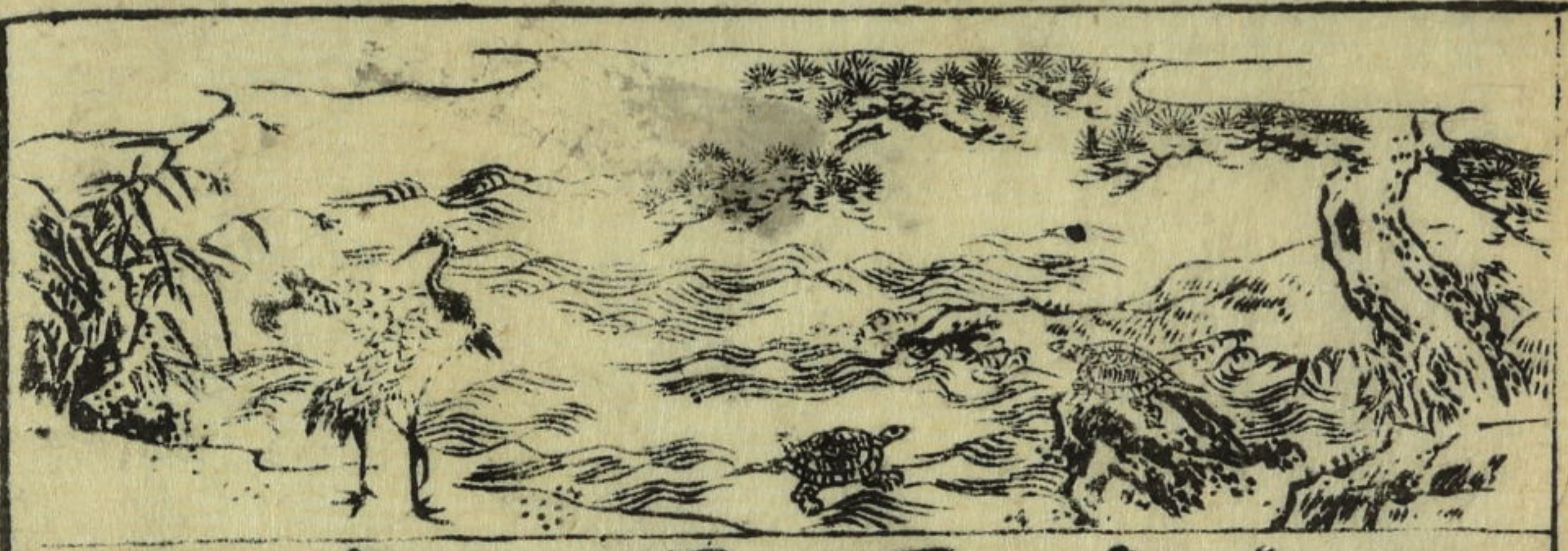


右の...  
 山...  
 他...

子...  
 諸...  
 と...



三川



庭訓往来

春梅河院の貴方と信守復  
 軍貴方福徳の業甚くは  
 初ねる箱目之三次下  
 中ねる箱目之三次下  
 延し似真書と撰たは  
 延し似真書と撰たは

人間食時五息解

凡僧尼のやまのうら  
 食時毎小又観十佛  
 念仏涌しぬ法小食  
 をも一深く位於を  
 おそ積く位小食小  
 東よりまを家かく  
 のでくつらうとと  
 又思瓜をよと一頁  
 天子をけりちなり  
 三公九卿も七も食  
 時法ありて受  
 食の上介と守賀の  
 御魂あまの給ふと

月夜願山ままに  
 雀山つ勝有る懸  
 草鹿園相遊と九  
 世三師出る行後  
 身移人達者少く  
 其給ふもも是羊  
 其給ふもも是羊

之是六穀乃稷神  
... 釋氏を  
... 鳥獸を  
... 禮記曰夫  
... 勿博食母流如數  
... 食母器骨と聖人起  
... 飲食之法と教  
... 所記の孟子曰飽食  
... 糧衣遠居無教近禽  
獸と此誠やと云ふ  
... 故曰今吾人の教  
... 小しと釋氏の云觀

左の...  
... 此食乃玉衣  
... 之故也  
... 君の意  
... 君父  
... 屬又他人  
... 惠り  
... 服令  
... 小しと受

謀上石負守教  
... 正月音  
... 改年吉慶  
... 目  
... 少

... 脚  
... 道  
... 業  
... 保  
... 保

ふりくどとて思くる事  
わきまをりしを死に  
べし世なりしにけり  
改悔せし者も終に  
踏債ふ餓死をす  
農工商の己が力先  
喰ふものも世静あ  
さし合ふよと何と  
どし色く國土法  
忍ぶ事下  
凡男子女人とて  
風も起くも世の  
口敷き日天のさ  
治さるる河東  
ひひも合ふ事  
そい備名を  
て  
小田月星辰の君重  
とせりい上  
天子將軍の御恩吹  
小國主地頭父母  
君の天恩承りし  
息災延命將福者  
福とりのふ上  
ゆりしとて守  
護の権威がたふ  
水火盜賊の患も  
ぬくまふ事あり  
あふふ不肖の  
ともの外中人  
散ひ不肖肉を  
小妻子とて

光緒二十六年  
五月六日  
石見守中原  
謹上 深在儀し敷  
西平海峽に全志  
多岐三毒が母は  
悔やみ  
自に感  
情  
結  
送  
第  
敬  
小

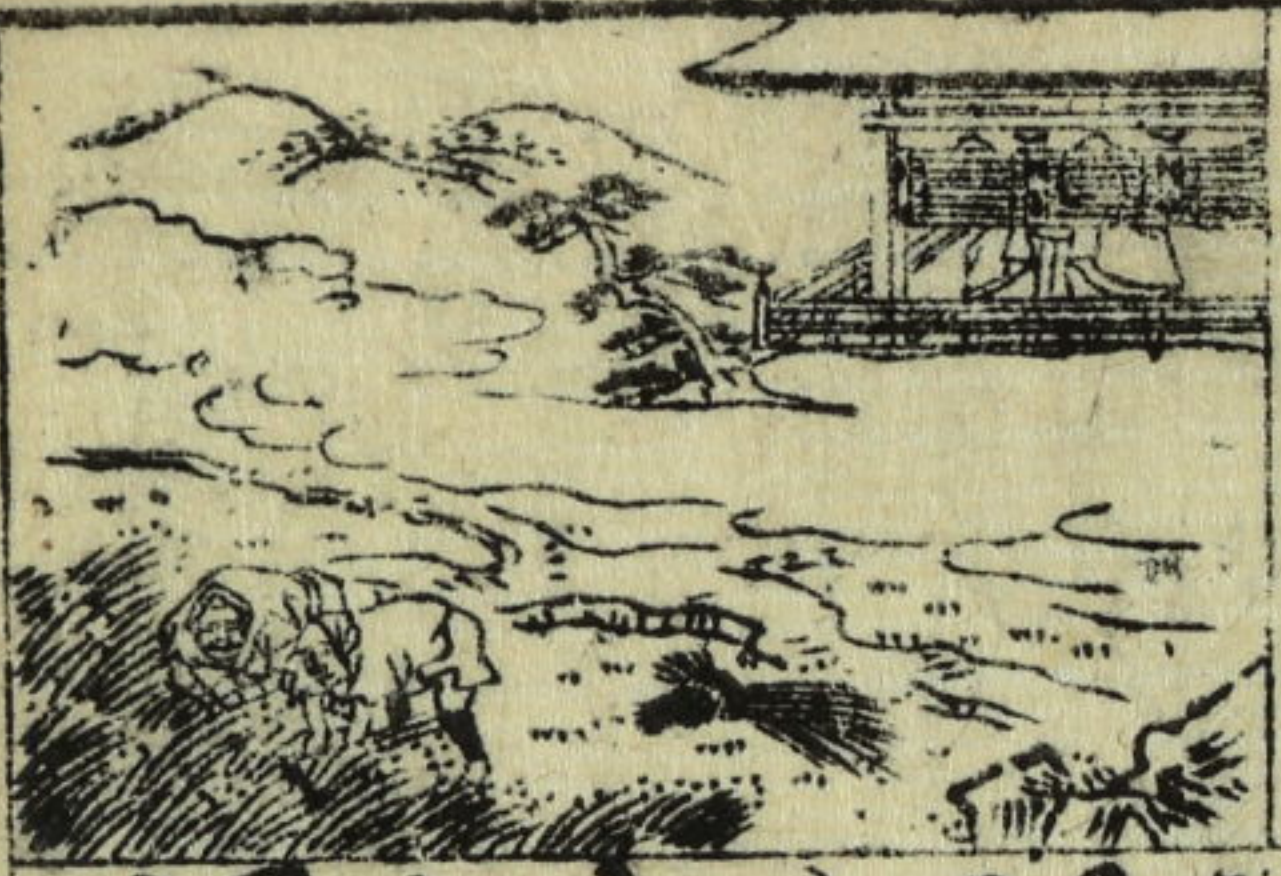
光緒二十六年  
五月六日  
石見守中原  
謹上 深在儀し敷  
西平海峽に全志  
多岐三毒が母は  
悔やみ  
自に感  
情  
結  
送  
第  
敬  
小

光緒二十六年  
五月六日  
石見守中原  
謹上 深在儀し敷  
西平海峽に全志  
多岐三毒が母は  
悔やみ  
自に感  
情  
結  
送  
第  
敬  
小



春房と桂助一安  
 種一先陸松三  
 一と世思惠を  
 假もと疎ふかりを  
 の唯細起と  
 一と日とこれま  
 起るの病を生  
 するのしつら  
 大ふき加れぬ  
 足成り  
 〇二六廿食固農夫  
 の辛若して作を  
 其辛若と行ひ  
 中下一のし  
 身と自料と

早業のほたなは松山  
 形の後景同もも  
 由我建云とある  
 半次徳向と徳  
 竹筒も直も清  
 情并秩弟心  
 〇二六廿食固農夫



居る安樂と  
 〇二六廿食固農夫

併胡春と次方  
 二月廿二日  
 謹上  
 秋自毛  
 心要  
 花鳥

金とてそのあか  
樂とてそのま  
乃長久を祈る毒  
と命ある病愈  
まんすれども  
不にれよりあま  
のふらけ又若  
を氏忠父母これ  
比頭領主の宗及  
とわしあまも所  
知西の人の殊不  
政を時と忍ふ  
りしに氏國の元  
手れゆとも  
非理に氏國を  
誣負しるる

貞享年中は有る  
乃代官何某の  
吏非道も夫を  
まし生れし  
比獄に墮ると因果  
集ふやると思ふべき  
本邦の唐の長吏  
中がゆふ  
翻田當日午行滴  
未下土誰念中  
餐粒之皆辛苦  
や本と中をま  
御の歌  
わらほに團らつこの  
甲斐もか一恵ぬ民  
小くゆくぬ

法を執りて年々  
相討を懐くは  
後樹揚成公國  
面有養育費  
行時意を  
人此亦人  
法を執りて年々  
相討を懐くは  
後樹揚成公國  
面有養育費  
行時意を  
人此亦人

領浪を折ち出  
打紙産成は  
江が田  
声傳  
此後  
之心

誠ふらうふらん  
勝なり一粒の食  
くられ不仕夫の汗  
多しと古人の言  
○二六我才智使  
も君然まともも氏  
を治ぬ切もなく世  
英會を要はる幸  
乃甚くおふ何と  
容易不慮とふ  
あれまと言ふ  
来よのこい  
思念され牛馬の  
水多と念とる

○四つ世の我も  
貧しき人多く七  
糟糠を食ふも  
能はるくも本は  
わひの飢死を  
者もあつとあつと飽  
すて食ひ飢餓の憂  
もなりもスレ  
ふ何とや  
世と深くおひ天  
會との食はれ  
言う釈氏の大観  
の中に防心現過不  
過之毒と入り日々  
食ふ會着とほ

来練向為...  
下有用と...  
二月廿日  
律と弾...  
祝喜...

重...  
紫...  
作...  
由...  
平...  
保...

延川

廉食の味と生  
と産物とを天か  
らうらゝん瘰癧とす  
是れ之れ之れ毒と制  
伏し此食の飢渴を  
病食の瘰癧とす  
かり念しを留  
會れ好悪を論と  
今  
○五の古上右の村を  
わり一上右の村を  
かゝる一上右の村を  
根とくひ先を  
血脈とすれは  
如來の如く  
會食もこれなり

令統のけしき  
くつまふりな  
其時りくしき  
食をば定む味  
われく却て腸胃  
快んんんんん今  
飯と鞭ふまを  
あつて食し又蔬  
ありまのりそ  
食ふまのりそ  
酒肴のりそ  
一肉の氣血と同  
とらはれぬ食  
ふまのりそ  
可なりぬまふ  
りして

沙法入毒  
例附法  
田族衆科  
其の相父  
高の勢有  
今更行た  
用の便者  
民

後所國律  
也所探海  
細欽重  
備案商  
表食食  
清細富

目ふふ樂し其申ふ  
わると大お冥加を

世中の上良入殺

本紀古入魚と蝦

肉とらひ毛と改

神養英帝氏より

食とともく

丸男子其のそと

見ん瓜とて同せ

とて初サオキ

無並の殺まぬ

勝るひよき

の好要ふまひ

終小病を感と

醜をうと秋た

の過かろ子

寿命延長を

かたれつー

信とた

毎年来る拾子に故宮を存自の依

復た能楽也本宮の台別化事

奉約事の接合の口月三

採肉の旨有妙の成集田去

心業勢に盛る計の復教を

道枝店廊中しは教を復教

沙原新園造長田字新文

行政事務奉新院殿后の

な様は健命の書業書

常高の通書松馬城増将

築地心算の棟梁柳坪徳

中務の采女を奉養し事水

草真 千字文

天地玄黄

宇宙洪荒

日月盈昃

辰宿列张

寒来暑往

秋收冬藏

闰余成岁

律吕调阳

云腾致雨

海晏河清 时和岁丰 有年穰穰 行露膏雨

仰企皇天 俯祈上帝 庶几夙夜 无违天志

体心正德 尊卑有序 上下和睦 乾坤交泰

序之中和 降之澍雨 洽于四海 润于万民

或求于天 或求于地 或求于人 或求于鬼神

嘉禾蔚起 嘉木繁茂 民物阜康 时和岁丰

仲夏之月

三月十日

壬午年元平

中政所取

新元之始 万象更新 乾坤交泰 万物咸宜

律吕调阳 万物咸宜 乾坤交泰 万物咸宜

嘉禾蔚起 嘉木繁茂 民物阜康 时和岁丰

用

露結為霜  
露結乃霜

金生麗水  
生麗水

玉出崑岡  
出崑岡

玉出崑岡  
崑岡

玉出崑岡  
崑岡

玉出崑岡  
崑岡

玉出崑岡  
崑岡

果珍李棗  
不珍李棗

菜重芥薑  
菜重芥薑

海鹹河淡  
海鹹河淡



香仍出年香書人撰仍吉日良

辰耕他書書中地年書書或

仿失或失或或或或或或或或

上然向來書公書書書書書書

負負負負負負負負負負負負

他筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆筆

本本本本本本本本本本本本

口冠本本本本本本本本本本

方書書書書書書書書書書書

柄柄柄柄柄柄柄柄柄柄柄柄

角角角角角角角角角角角角

法法法法法法法法法法法法

庭川

鱗潛羽翔  
解滑相細

龍師火帝  
統師比帝

鳥官人皇  
考友人多

始制文字  
始制文字

乃服衣裳  
乃服衣裳

推位讓國  
推位讓國

有虞陶唐  
有虞陶唐

吊民伐罪  
吊民伐罪

周發殷湯  
周發殷湯

坐朝問道  
坐朝問道

邦陽子遺序  
邦陽子遺序

桐子叔也  
桐子叔也

青棟棟押  
青棟棟押

善如之也  
善如之也

生并鑄  
生并鑄

審修羅  
審修羅

居相精  
居相精

以之學  
以之學

杏楊梅  
杏楊梅

漆楸棋  
漆楸棋

三川



豈拱平章  
率賓歸王

愛育黎首  
臣伏戎羌

退通壹體  
出化戎覓

鳴鳳在竹  
白駒食場

化被草木  
賴及萬方

化被草木  
賴及萬方

賴及萬方  
及系方

及系方  
蓋此身髮

蓋此身髮  
善此身髮

善此身髮

致下法奉法... 今物彼出...  
るのむすむす... けのむすむす... けのむすむす...

思法... 思法...  
思法... 思法... 思法...

免... 免...  
免... 免... 免...

下... 下...  
下... 下... 下...

三月... 左... 忠...  
三月... 三月... 三月...

進... 進...  
進... 進... 進...

今... 今...  
今... 今... 今...

案... 案...  
案... 案... 案...

電... 電...  
電... 電... 電...

仁... 仁...  
仁... 仁... 仁...

理... 理...  
理... 理... 理...

實... 實...  
實... 實... 實...

四大五常  
四久五為

恭惟鞠養  
其惟終老

豈敢毀傷  
寧敢毀傷

女慕貞絜  
男效才良

知過必改  
知過必改

得能莫忘  
得能莫忘

罔談彼短  
罔談彼短

靡恃已長  
靡恃已長

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

信便可覆  
信便可覆

器欲難量  
墨悲絲染  
詩讚羔羊  
景行維賢  
系以維管  
克念作聖  
德建名立  
形端表正  
取端表正  
空谷傳聲  
虛堂習聽  
禍因惡積  
得因惡積

德建名立  
 形端表正  
 取端表正  
 空谷傳聲  
 虛堂習聽  
 禍因惡積  
 得因惡積  
 德建名立  
 形端表正  
 取端表正  
 空谷傳聲  
 虛堂習聽  
 禍因惡積  
 得因惡積

德建名立  
 形端表正  
 取端表正  
 空谷傳聲  
 虛堂習聽  
 禍因惡積  
 得因惡積

德建名立  
 形端表正  
 取端表正  
 空谷傳聲  
 虛堂習聽  
 禍因惡積  
 得因惡積

庭訓

福縁善慶  
福為道業

尺璧非寶  
不璧也寶

寸陰是競  
寸陰是競

資父事君  
資父事君

日嚴與敬  
日嚴與敬

孝當竭力  
孝當竭力

忠則盡命  
忠則盡命

臨深履薄  
臨深履薄



給伴人等  
給伴人等

卯月六日  
卯月六日

中書省  
中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

行中書省  
行中書省

正訓

風興温清  
風靡淫泆

似蘭斯馨  
如松之盛

如松之盛  
如松之盛

如松之盛  
如松之盛

如松之盛  
如松之盛

容止若思  
言辭安定

言辭安定  
言辭安定

言辭安定  
言辭安定

言辭安定  
言辭安定

言辭安定  
言辭安定

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

名臣山岳... 德澤... 功業... 名臣山岳... 德澤... 功業...

庭訓

藉甚無竟  
藉甚無竟

學優登仕  
學優登仕

攝職從政  
攝職從政

存以甘棠  
存以甘棠

去而益詠  
去而益詠

樂殊貴賤  
樂殊貴賤

禮別尊卑  
禮別尊卑

上和下睦  
上和下睦

夫唱婦隨  
夫唱婦隨

外受傳訓  
外受傳訓

此等教字皆為中外列國  
此等教字皆為中外列國

中藏教字皆為中外列國  
中藏教字皆為中外列國

朝漢程法材本安流傳經史  
朝漢程法材本安流傳經史

河內魏晉漢通經史皆在漢  
河內魏晉漢通經史皆在漢

粟李皆貨品物也通經史皆  
粟李皆貨品物也通經史皆

後穀穀是國唐也其樂器皆  
後穀穀是國唐也其樂器皆

雲霞霞雲雲霞霞雲霞霞雲  
雲霞霞雲雲霞霞雲霞霞雲

軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍  
軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍

吳會吳會吳會吳會吳會吳會  
吳會吳會吳會吳會吳會吳會

己律律律律律律律律律律  
己律律律律律律律律律律

庭訓

〇七

入奉母儀  
 諸姑伯叔  
 猶子比兒  
 孺子兄弟  
 孔懷兄弟  
 同氣連枝  
 同亭在枝

交友投分  
 切磨箴規  
 切磨箴規  
 二慈隱惻  
 仁茲位心  
 造次弗離  
 造次弗離  
 節義廉退  
 節義廉退  
 節義廉退

三月廿一日中務卿清原公家

進上宋女心教

良之通西平積善如何見教

曠務式也為後學之附保結

齊奉村園米山向公家公家

謹法使のま芳の因の真

折若若事力金實汝具之亦

式不故持持難決人考如守

前汝心まあ大昔陳阿客

續既介有禮年出遊周方至

忙控也澄先之必望以信恭回暮

申去難端五海海老送傳

顛沛匪壑  
 物涉匪壑  
 性靜情逸  
 性靜情逸  
 心動神疲  
 人動神疲  
 守真志滿  
 守真志滿  
 古志志滿  
 逐物意移  
 逐物意移  
 逐物意移

堅持雅操  
 堅持雅操  
 星持雅操  
 好爵自縻  
 好爵自縻  
 好爵自縻  
 都邑花夏  
 都邑花夏  
 都邑花夏



几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債  
 几帳繁華盡舊債

感物不及美  
 感物不及美  
 感物不及美  
 感物不及美  
 感物不及美  
 感物不及美  
 感物不及美  
 感物不及美



東西二京  
東面二系

背邱面洛  
背邱面洛

浮渭據涇  
浮渭據涇

宮殿盤鸞  
宮殿盤鸞

樓觀飛鸞  
樓觀飛鸞

圖寫禽獸  
圖寫禽獸

畫彩山靈  
畫彩山靈

丙舍傍啓  
丙舍傍啓

甲帳對楹  
甲帳對楹

肆筵設席  
肆筵設席

賁餘養後復為徘徊心不寧也

杯為人所陳博奕也其意如法

備用也其於物也其意如法

尤甚矣律猶猶其意如法

聖者可往其意如法

乾梅劑也其意如法

剪海氣也其意如法

魚雜虎鳳鴨轉其意如法

一番地者其意如法

刻鏤也其意如法

鼓瑟吹笙  
鼓瑟以笙  
外階納陛  
陛以油陛  
并轉疑星  
矢轉物星  
右通廣內  
右通廣內  
左建承明  
左建承明  
左寺承明

既集墳典  
既集墳典  
亦聚群英  
亦聚群英  
杜橐鐘鏗  
杜橐鐘鏗  
漆書辟經  
漆書辟經  
洙出聖經  
洙出聖經  
府羅將相  
府羅將相  
府羅將相

漢漢標本取為將國解味嘗海蘭  
腹極為賦辛物棠物蜂踏更雜  
唯沐榮感賞感氣之素之人  
從心是業の心 後中多為漢之  
二月日 奉旨撰大江  
左系を及 沖海平

い間依連物志本之松山雜  
後後七西物探世上段為舞作  
のあふまらぬ 一のあふまらぬ  
いもの標者道送故春命を  
謀教及送の心 案あ業一平送職  
信思雲人蜂を 関山賊海賊  
旗徳河漢は業人横行而業取人

路俠槐眼

秘傳規

戶封八縣

戶封八縣

家給千兵

家給千兵

高冠陪輦

高冠陪輦

驅轂振嬰

驅轂振嬰

世祿侈富

世祿侈富

車駕肥輕

車駕肥輕

策功茂實

策功茂實

勒碑刻銘

勒碑刻銘

磻溪伊尹

磻溪伊尹

財在追捕民保別後旅人參老

財在追捕民保別後旅人參老

家族國難回撥揚彼在城柳茂

家族國難回撥揚彼在城柳茂

不備然賊洗整國要害之國之

不備然賊洗整國要害之國之

年坎進新法者以國城場家

年坎進新法者以國城場家

與今者者者者者者者者者者

與今者者者者者者者者者者

途與其人者者者者者者者者

途與其人者者者者者者者者

中今統中中中中中中中中中中

中今統中中中中中中中中中中

三

三

佐時阿衡  
 依時河海  
 奄宅曲阜  
 益毛母早  
 微且孰營  
 微且孰營  
 桓公往合  
 桓公往合  
 濟弱扶傾  
 濟弱扶傾  
 清弱技傾

綺迴漢惠  
 孫回海魚  
 說感武丁  
 說感武丁  
 浣成或丁  
 俊人密勿  
 俊人密勿  
 多士寔寧  
 多士寔寧  
 多士寔寧  
 晉楚更霸  
 晉楚更霸  
 晉楚更霸

威族令樸也長依我切忠者  
 先將軍忠漢源之活朝思持播  
 代唐公領野焚命地家牙  
 有痛夫位不顧餘至不務心  
 度保信海行善上之儀之  
 六月十日  
 勅諭漢家臣

味上漢家臣也  
 先將軍忠漢源之活朝思持播  
 代唐公領野焚命地家牙  
 有痛夫位不顧餘至不務心  
 度保信海行善上之儀之  
 六月十日  
 勅諭漢家臣

是訓

七七



馳譽丹青  
社名丹青  
九州禹跡  
九物未化  
百郡秦并  
百郡秦并  
嶽宗恒岱  
新宗未成  
禪主云傳  
存色云言

久神丹  
延顏龍如錄  
王首吳天鶴  
夜如鳳儀  
尚如  
佳卷佳年  
久神丹  
延顏龍如錄  
王首吳天鶴  
夜如鳳儀  
尚如  
佳卷佳年

雁門紫塞  
存色云言  
鷄田赤城  
陸田志城  
昆池碣石  
昆池碣石  
只池碣石  
鉅野洞庭  
託野洞庭  
曠遠縣邈  
曠遠縣邈

許司  
轉毛  
月韻  
只言  
栲  
許司  
轉毛  
月韻  
只言  
栲

注川

七

巖岫杳冥  
治本於農  
務茲稼穡  
併載南畝  
我藝黍稷  
勸賞黜陟  
勸貴班師  
孟軻敷素  
史魚秉直  
庶幾中庸  
危軍中廟

我藝黍稷  
併載南畝  
勸賞黜陟  
勸貴班師  
孟軻敷素  
史魚秉直  
庶幾中庸  
危軍中廟

萬物之靈惟人也  
此其所以貴也  
然人之於天  
亦猶木之於土  
也  
夫木之於土  
猶人之於天  
也  
故君子必先  
慎乎德  
德有本  
有末  
行有方  
有圓  
君子必先  
慎乎德  
德有本  
有末  
行有方  
有圓

德有本  
有末  
行有方  
有圓  
君子必先  
慎乎德  
德有本  
有末  
行有方  
有圓

三

七

勞謙謹勅  
方海謹勅

聆音察理  
於音察理

鑑顏辨色  
鑑顏辨色

貽厥嘉猷  
貽厥嘉猷

勉其祗植  
勉其祗植

省躬譏誡  
忠躬譏誡

寵增抗極  
寵增抗極

殆辱近耻  
殆辱近耻

林宰幸即  
林宰幸即

兩疏見機  
兩疏見機

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓

庭訓  
庭訓  
庭訓



解組誰逼  
細組誰逼  
索居閑處  
素居閑處  
沉默寂寥  
沈默寂寥  
沈默宅案  
沈默宅案  
求古尋論  
求古尋論  
散慮逍遙  
散慮逍遙  
散慮逍遙  
散慮逍遙

進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數  
進上之方以獲數

欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣  
欣奏累遣

張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級  
張表衣三衣外屬中級



庭訓

廿七



屬耳垣墻

具膳食飯

適口充腸

飽飯烹宰

飢厭糟糠

親戚故舊

老少異糧

妾御精紡

侍中帷房

執扇圍潔

現據此處札...

圓彼方...

拍案...

安...

運...

已...

疑...

法...

日...

可...

註

七

銀燭輝煌  
松炬煒煌  
晝眠夕寐  
為眠夕寐  
簾筭象床  
露華露床  
絃歌酒讌  
吟詠酒藝  
接杯舉觴  
拈杯舉觴

嬌手頓足  
指手頓足  
悅豫且康  
以豫且康  
嫡後嗣續  
嫡後嗣續  
祭祀蒸嘗  
祭祀蒸嘗  
稽顙再拜  
稽顙再拜  
稽顙再拜

七月廿日 賀賀大標和氣  
僕上 氏部 奉命  
依舊儀方不中道遠略  
今也 奉命 同 奉命 奉命

春平上天 靜漢事人 接安所  
禮出 漢教 奉命 奉命  
停滯 漢儀 改方 折和 奉命  
息儀 漢儀 奉命 奉命  
拘封 略 奉命 奉命 奉命

棟懼恐惶  
 味怪正怪  
 穢牒簡要  
 時捺音毒  
 顧答審詳  
 初至聖海  
 骸垢想浴  
 執執願京  
 瓶瓶以係

驢騾犢特  
 種絲特特  
 駭躍超驤  
 致澤起濼  
 誅斬賊盜  
 淨新味此



庭訓  
 法身... 業以人...  
 聖... 公...  
 具... 德...  
 相... 德...  
 中... 德...  
 國... 德...

有... 德...  
 不... 德...  
 何... 德...  
 沙... 德...

捕獲叛亡

捕獲叛亡

布射意丸

布射意丸

拈琴阮嘯

拈琴阮嘯

恬筆倫紙

恬筆倫紙

恬筆倫紙

鈞巧任鈞

釋約利倍

釋約利倍

並皆佳妙

並皆佳妙

毛施淑姿

毛施淑姿

工輦妍咲

工輦妍咲

年矢每催

年矢每催

取捨者亦... 爲奴操... 是者凡而

已成... 爲奴操... 是者凡而

記... 爲奴操... 是者凡而

子... 爲奴操... 是者凡而

人... 爲奴操... 是者凡而

春... 爲奴操... 是者凡而

也... 爲奴操... 是者凡而

尚... 爲奴操... 是者凡而

香... 爲奴操... 是者凡而

智... 爲奴操... 是者凡而

深... 爲奴操... 是者凡而

信... 爲奴操... 是者凡而

曦暉朗曜  
暉暉朗曜

旋璣懸軒  
旋璣懸軒

晦魄環照  
晦魄環照

指薪脩禱  
指薪脩禱

永綏吉劬  
永綏吉劬

矩步引頷  
矩步引頷

俯仰廊廟  
俯仰廊廟

束帶矜莊  
束帶矜莊

徘徊瞻眺  
徘徊瞻眺

孤雁實聞  
孤雁實聞

江上思中

拾の青人 幾許の青人 幾許の青人

人 或は 或は 或は 或は 或は

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

新 新 新 新 新 新 新 新 新 新

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

外 外 外 外 外 外 外 外 外 外

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

集 集 集 集 集 集 集 集 集 集

貴 貴 貴 貴 貴 貴 貴 貴 貴 貴

發 發 發 發 發 發 發 發 發 發

愚蒙等誦  
臣等お酒

謂語助者

にほめ志

焉哉乎也

焉哉乎也

千字の書は  
陳郡の人散騎  
御用興嗣字を思  
漢の武帝諸の  
達不書はと可せん

為一般職を  
して王義之を  
の中はく重なる者  
三千字を撰出に  
のの雅碑しく次  
奉るはとしく同  
興嗣とすくもを  
論で物とす  
を序と親同  
便りしと興嗣  
勅をきて一を編  
て武帝へさるり  
のいとしとす  
松葉多し白く  
千載の絶句とす

今申作之と云々

月七日 友位長首神

律上 大極反

と領海はれ 和徳の 高剛首

と業の 律上とと未行は 軍家若

と海軍 律上 律上 律上 律上

作法 然を 是を 和徳 和徳 和徳

為是 律上 律上 律上 律上

後軍 御人 律上 律上 律上

表表 數の 律上 律上 律上

果位 律上 律上 律上 律上

又 律上 律上 律上 律上

注川

一五

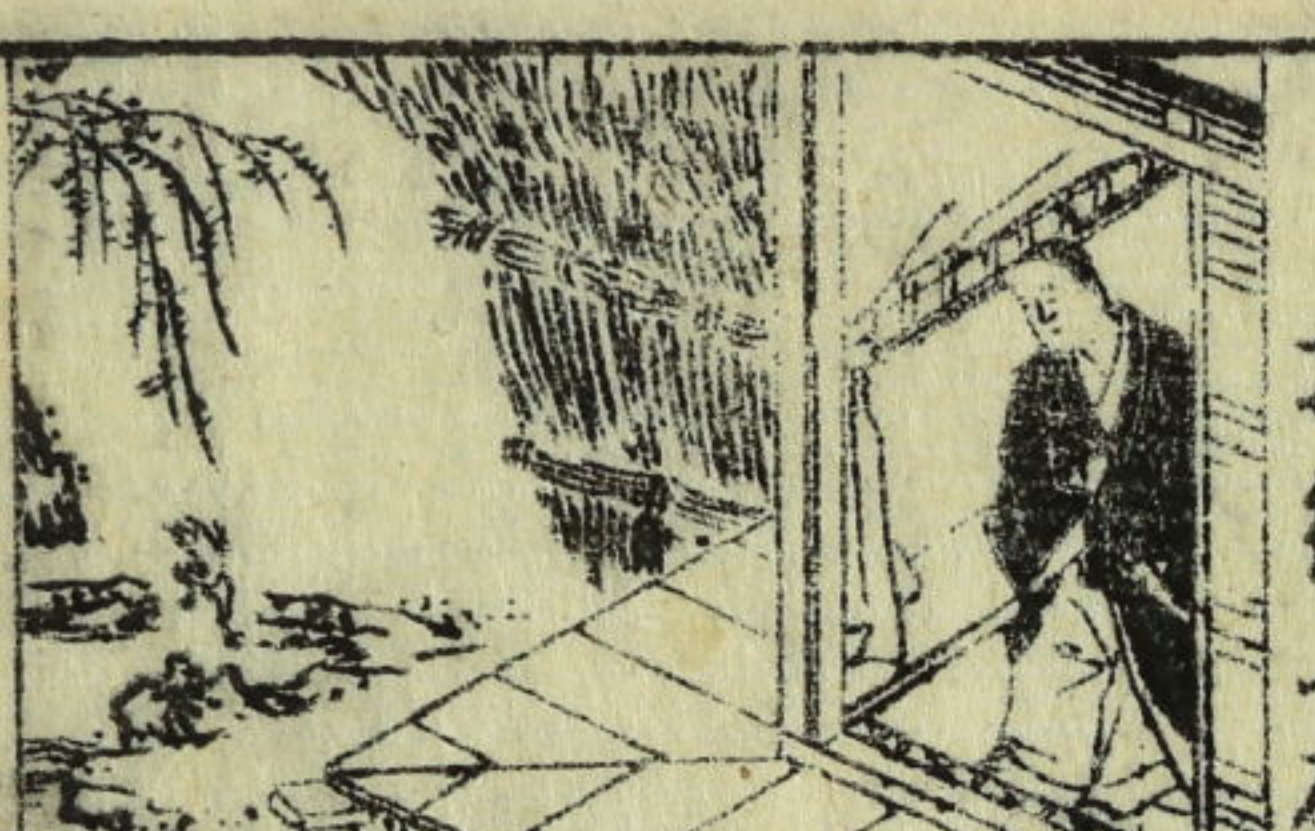


奉朝書法 七十 二例

一 一字の中身を  
頭と尾小勢を  
小真意の行も  
永 是も此の  
世字八下ふ筆の働  
あり文字乃筆を  
はく筆のりは字  
く書意は  
のまらま  
くは  
一字は

一 一字の中身を  
頭と尾小勢を  
小真意の行も  
永 是も此の  
世字八下ふ筆の働  
あり文字乃筆を  
はく筆のりは字  
く書意は  
のまらま  
くは  
一字は

一 寛捺  
二 文定止足  
三 龍尾  
四 瑞句  
五 お約及枝



は書意の平は捺金は凡平中調は  
合平調は凡平中調は  
馬鞍は腹右平代は平調は  
義自外は平調は  
凡平調は凡平調は

相違は凡平調は  
調は凡平調は  
合平調は凡平調は  
神皇は凡平調は  
は書意の平は捺金は凡平中調は  
合平調は凡平調は

之 山 子 口 戈 乙 巳 丁 卯 乙 人

之入... 進道送... 寶蓋... 定定... 珠句... 孝好... 艶膏... 若石... 櫻... 依或... 散水... 法池... 蝶翅... 依長... 人... 仕仲...

并冠... 苦管箱... 側... 沙之元... 利刀... 判判... 集... 阿附... 邑法... 郭邦... 疾... 泖... 幸... 合掌... 金分...

Handwritten text in cursive style, including the characters 月 and 右衛門尉. Includes vertical text on the right margin: 山 子 口 戈 乙 巳 丁 卯 乙 人.

Large handwritten text in cursive style, likely a continuation of the text on the right page.

三川

四

朱 一 二 三 四 五 六 七 八 九

朱 朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱

朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱  
 朱朱朱朱朱朱朱朱朱朱

十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

十 十十十十  
 九 九九九九  
 八 八八八八  
 七 七七七七  
 六 六六六六  
 五 五五五五  
 四 四四四四  
 三 三三三三  
 二 二二二二  
 一 一一一一

十十十十十十十十十十  
 九九九九九九九九九九  
 八八八八八八八八八八  
 七七八七八七八七八七  
 六六六六六六六六六六  
 五五五五五五五五五五  
 四四四四四四四四四四  
 三三三三三三三三三三  
 二二二二二二二二二二  
 一一一一一一一一一一

庭訓

(四十一)



り 口 也 母 夫 口 一 八

可亦取  
 遂抱  
 浪  
 他地  
 全懷  
 每海  
 春  
 麟角  
 不  
 抗  
 久

儀...  
 三...  
 有...  
 松...  
 乃...  
 未...

小 近挑  
 筆 如翠  
 如 浮鴨  
 鳴 鳴鶴  
 勝 勝情



九月日  
 平入道  
 侍者  
 院...  
 間...  
 御...

庭訓









首尾一致の精神と  
 ありて未だ其の  
 向ふ天竺法湯  
 乃ち之を森羅  
 万象をこころと  
 ししく一は始りて  
 一は歸せしぬ奥  
 義一文字あり  
 大衆の得たり  
 一世宝蓋起しあり  
 心ありて起し  
 一いふありて無  
 し編譯あり  
 一緯をたがし斜  
 ありて一あり



いふありて一あり  
 一緯をたがし斜  
 ありて一あり  
 一緯をたがし斜  
 ありて一あり  
 一緯をたがし斜  
 ありて一あり

厨部

り一がさる。そ一やふくろふのひりりさんさんのさる。  
 知業方よまはせ梅心天機軍報給  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ  
 花鏡本流末音記公首可もまはせ

下上及び如常並現るる本儀温精  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事  
 博覧の道業を善善精考辨明の事

厨部



の吳分那とて人  
 こし筆提ののし  
 下れ賜よ下とを  
 上へ筆分むらさ  
 わられさり  
 フ指骨提腕の法  
 とし横良を角を  
 ねらふふと提  
 たるふふと提  
 なを提ひつら  
 なくい田と訓と  
 ノ捺筆とて筆尾  
 ころたひり右  
 十良の法ハ漢帝  
 の速立ありと  
 甚深の秘決あり古

人志字分まるる  
 こし老より全字  
 小より一ノ入等  
 乃良法分きま  
 後重疊とて字  
 たりとて分ぬ  
 神字を人疎小と  
 筆分んとて人  
 書論乃書籍  
 ち統わると是  
 けを分ちりて  
 古法帖乃字  
 より風儀も  
 基として學ぶ

ひたがいのまのり  
 安平其昔は  
 馬書道待  
 生あは描  
 紫子推  
 若菜後  
 病服素  
 浦安

三教首  
 吾老  
 今春  
 十月日  
 某  
 世間  
 更發



尊閨 きんぎ

豚児 とんこ

荊釵 しんし

相識 しんし

知己 ちんし

社友 しゃゆう

故人 こじん

無頼 むらい

高陽徒 こうやうと

放蕩 ほうたう

凱東西 がいとうせい

龍陽 りゅうやう

十一月

海上

披

仲

香

振

世

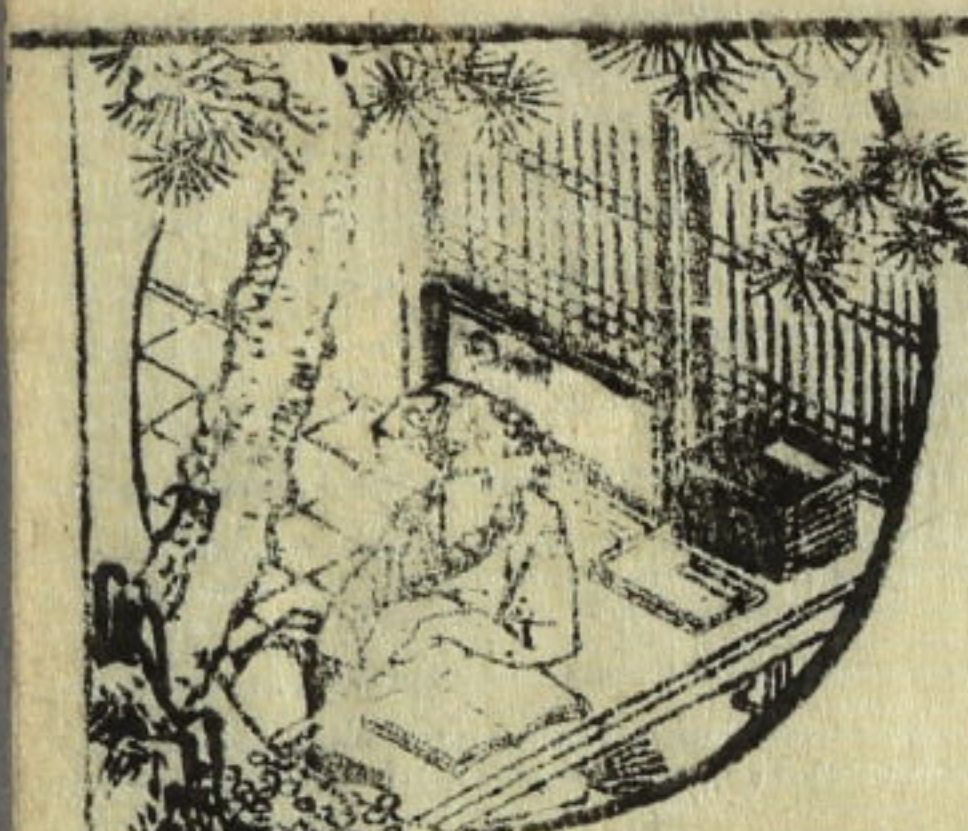
美

泉

睡

芳

采



頑童 がんどう  
衣物 いぶつ  
國色 こくしき  
妓女 きよ  
情郎 じやうらう  
情妓 じやうき

春



睥睨 人のまへを  
 醜 みにくい  
 忘憂 こころを  
 御杯 まじりの  
 下物 さげもの  
 行厨 へんす  
 佩刀 わんぎ  
 撃剣 けんたの  
 馳馬 うちま  
 好事癖 よきこと  
 贖物 かいもの  
 世貞総元 せいちそうげん

如蠟毛 じゆろうまう  
 呈上 へんじやう  
 見惠 けんゑ  
 佳惠 けゑ  
 返璧 へんぺい  
 完璧 かんぺい  
 墨竹 ぼくちやく  
 没骨画 ぼつこくが  
 粉本 こなほん  
 雙鉤 しようこう  
 裱装 びやうさう  
 雨衣 いうい

着位者後使奉養膳厨祝  
 式御把部判長法道宗  
 下湯共秘書見聞行極  
 西坊平信長也  
 十一日  
 望上 ばうじやう  
 杖前守教 じやうぜんしゆけう  
 年佐 ねんすけ

御清公御殿  
 奉書御前  
 通者公御殿  
 御物之由書  
 速書書御殿  
 史公者御殿

五三

五十九

浮屠氏 俗のし  
 嘲弄 ぶつし  
 高堂大厦 びやうたんの  
 弊廬 びろ  
 驚目 せうめく  
 九國 くにたつこ  
 九氏司馬 くにたつこ  
 輓近弊風 げんてんべいふう  
 得隲必罰 とうじふく  
 迁遠 せんえん  
 雜馬 ざば  
 阿堵物 あどぶつ

子孫を辱人自辱は例に非  
 ざる宗族は例に非ざる  
 雅業府債権を執る者  
 聖徳太子の御遺徳を  
 尊ぶるは例に非ざる  
 阿堵物を執るは例に非  
 ざる

囊金 ぶくろい  
 貴价 けいあ  
 臨書 りんしよ  
 書齋 しょさ  
 扁 べん  
 柱聯 ちうれん  
 巾箱本 ちんさうぼん  
 書皮 しょひ  
 帙 せう  
 書厨 しょちよ  
 書篋 しょけつ  
 懶架 らんか

子孫を辱人自辱は例に非  
 ざる宗族は例に非ざる  
 雅業府債権を執る者  
 聖徳太子の御遺徳を  
 尊ぶるは例に非ざる  
 阿堵物を執るは例に非  
 ざる





法帖 いっせん  
 画帖 あつせん  
 毛頰 あまのり  
 毛錐 あまのり  
 巨筆 あまのり  
 筆管 あまのり  
 筆帽 あまのり  
 筆筒 あまのり  
 筆架 あまのり  
 筆池 あまのり  
 陶泓 あまのり  
 以上

頃拾遺不替扶亡...  
 初會初會...  
 先例...  
 綱目...  
 貞現...

進上...  
 三月...  
 依教...

天明第六丙午孟春上櫻  
 御江戸常盤橋御門  
 本町筋北八町目通油町  
 書林 耕書堂 葛屋重三郎藏板

